

2.3. 栗栖 利蔵氏（ヤマトホールディングス株式会社 代表取締役副社長執行役員）

「北九州市と当社の強みを組み合わせ『物流トップのまち』に」



栗栖 利蔵（くりす としぞう）

富山県出身。

1983年ヤマト運輸(株)（現ヤマトホールディングス(株)）入社、経理部主計課長、経理部長、財務部長、グループ経営戦略本部部長を歴任。

そのうち、ヤマトホールディングス(株)執行役員、常務執行役員を経て、2022年より現職。

「物流による周辺圏域全体の成長へ」

北九州市は、空路として24時間空港という利点を活用した貨物便、陸路として高速道路網を活用したトラック・鉄道輸送、海路としてフェリーやコンテナ輸送など、様々な「運び方」を組み合わせることが可能であり、従前より物流のポテンシャルが高いと感じていました。

当社（ヤマト運輸）という「宅急便」のイメージが強いかもしれませんが、船舶や航空機も活用して、様々なものを運べるのが強みとなっています。

2024年4月から北九州空港にフレイター（貨物専用機）が就航します。行政の協力も得て、運送する貨物を増やしていくことで、お客さまにも更なる貢献ができるのではないかと思います。

フレイターを活用した新たな物流を通じて、北九州市やその周辺地域に立地するメーカーさまにおいても新たなビジネスの可能性が生まれるのみならず、一次産品（農産物、水産物等）の産地として、新鮮なうちに消費地に運ぶことも可能となると考えています。

さらに、北九州空港は、滑走路延長により、今後は、国内だけでなく、東南アジア、東アジアや欧州・北米にもネットワークがつながっていきます。インバウンドにもアウトバウンドに

も、しっかりと対応できる空港になりうるのをご期待しています。

当社としても、このようなポテンシャルを生かして、今後は福岡県に加え、山口県を含む九州周辺圏域の、様々な貨物を取り扱っていきたいと考えています。

物流を通じて、北九州市とヤマトグループの強みやリソースを組み合わせ、社会全体に貢献することは、当社の経営理念にも通じ、非常に価値があることと捉えています。

「多様な運び方が可能に」

北九州では、陸海空のうち、陸路においては、高速道路網が物流にとって利便性が高く形成されていることが強みでしょう。加えて、海上や鉄道のネットワークを活用したモーダルシフトの展開も可能です。さらに、24時間運用可能な北九州空港など、輸送の制約が少ないという強みもあります。

北部九州では、このように物流として活用できる交通インフラの集積に加え、空港近辺に半導体、自動車産業の集積など、多くのお客さまの存在が、当社が北九州空港をフレイターの就航地として選んだ大きな理由です。

北九州空港への就航を表明して以降、お客さまから反響を多くいただいています。

これまで航空貨物は、旅客機の床下貨物スペースに貨物を搭載して輸送していますが、機種や旅客需要によって搭載貨物に制約を受けることがありました。

しかし、今後は貨物専用機を活用することで安定的にサービスを供給できる可能性があると思います。さらに同業他社と手を組むことで、選択できる運び方の幅も広がっていきます。

「サステナビリティ、脱炭素の改革を」

北九州市は、改革という面では非常に熱心に取り組んでいる自治体だという印象があります。

当社も改革に取り組んでおり、ポイントとしてESGの観点を重要視しています。いかにサステナブルに事業を推進できるようにするか、脱炭素をどうやって進めていくかといった点が問われています。

北九州市が率先して取り組んでいくことで、九州全域に波及し、他の地域の一步先を進めば、さらに良い競争が生まれていくと思います。当社としても、今後、他の地域でも展開できる取組を検討しており、ゆくゆくは日本全体で良い効果を生むことができると考えています。

また、昨今の九州の気象状況を見ると、7～8月に雨が多く、特に西側では豪雨災害も発生しています。災害発生後の迅速な復旧について、物流が貢献できることもあると思っています。豪雨災害は温暖化が一因でもあると考えられており、そのあたりも念頭に置きながら、私たちも改革を推進していきたいと考えています。

「先駆者になり『物流トップ』のまちに」

物流・貿易に強い地域は多数ありますが、九州では北九州が「物流のトップ」と言えるようなまちづくり（機能構築）を目指してほしいです。

半導体製造では、物流網が重要で、様々な自治体が取組を進めています。空港の活用方法や、

道路間の接続といった点を考え、効率的な物流基盤を整備することで、さらなる企業誘致にもつながっていくと思います。

人口については、少子高齢化などにより難しい局面かもしれませんが、私たちとしても雇用はしっかり確保し、住民の方のメリットにもつなげられるよう貢献していきたいと考えています。

北九州市は、「物流」をテーマに様々な取り組みを進められており、先述のとおり、陸海空の充実した物流基盤が大きな利点として挙げられます。私たち事業者とも連携しながら、先んじた取組を展開し、他の自治体にとって先駆者となるような存在になってほしいと思っています。